

消滅危機言語

しょうめつききげんご

endangered languages

一般

何らかの理由で近い将来話者が存在しなくなる可能性があり、消滅の危機にある言語・方言。ユネスコの「消滅の危機に瀕した言語地図」(World Atlas of Languages in Danger)は、日本国内の消滅危機言語として、アイヌ語、八丈語、6つの琉球語を報告している。ある言語・方言の消滅危機度を判定するには、その言語・方言を取り巻くさまざまな側面を考慮する必要がある。たとえばユネスコが提案している「言語の体力と消滅危機」(language vitality and endangerment)は、言語の基礎体力に関する6項目(世代間継承度、母語話者数、コミュニティに占める話者の割合、言語の使用場面、伝統的な場面以外での言語使用、言語教育に利用可能な資料)、言語に対する態度・政策に関する2項目(国の言語政策、言語に対するコミュニティの態度)、言語の記述の緊急度に関する1項目(言語記述の量と質)を総合的に調査して評価する。たとえばこの中で最も重要な指標とされている「世代間継承度」に関しては、言語コミュニティ内の最も若い話者が「曾祖父母の世代(1点)」「祖父母の世代(2点)」「親の世代(3点)」「子の世代」のどの世代に該当するかによって消滅危機度を判定する。この指標に関する消滅危機度は、最も若い話者が「曾祖父母の世代」であれば高く、「子の世代」であれば低い。「子の世代」は「すべての場面で使用している(5点)」か「限られた場面で使用している(4点)」かによってさらに細かく評価され、これに「言語を使用する者はいない(0点)」を合わせて、0点から5点が「世代間継承度」のスコアとなる。各項目のスコアの平均点を用いて、言語の消滅危機度を総合的に判断することが提案されている。

[文献] 木部暢子『じゃって方言なおもしろか』(岩波書店 2013)

[山田真寛]

親族名称

しんぞくめいしやう

kinship terminology

語彙

自分を中心として親族関係にある人を表す名称の総体。直接相手に呼びかける時に使うものを呼称(address terms)、自分との関係を表すものを名称(reference terms)と言う。方言では呼称と名称を区別しないことが多い。

【親族名称の素性】親族名称は以下の10の素性の1つ、または2つ以上によって区別される(柴田1968)〔 〕は男、女のような絶対概念、< >は自分より年が上、年が下のような相対概念を表す。

- (1) 性〔男、女〕<同性、異性>
- (2) 世代〔自分と同じ世代、自分より1世代上、自分より2世代上、自分より3世代上、自分より1世代下、自分より2世代下〕<自分と同じ世代、自分より上の世代、自分より下の世代>
- (3) 系統〔自分から直接上または下へつながる系統、自分と間接につながる系統、自分と間接の間接につながる系統〕<直系、傍系>
- (4) 年齢〔子供、大人、若年層、老年層〕<同年齢、年上、年下>
- (5) 父方・母方〔父方、母方〕<同じ“方”、異なる“方”>

たとえば、標準語のアニは≪男、同世代、間接、年上、×≫(×は当該の素性が関係しないことを表す)という素性を持ち、チチ≪男、1世代上、直接、年上、父方≫とは「世代」「系統」「父方・母方」の点で区別される。また、オトート≪男、同世代、間接、年下、×≫とは「年齢」の点で区別される。

琉球方言のウトットウ・ウットウは性を区別せず「弟」も「妹」も表す。したがって≪×、同世代、間接、年下、×≫という素性を持つことになり、標準語のオトートとは「性」の素性が異なる。ちなみに、平安時代の「おとうと」も性を区別しない。

語構造（スーツが格好良い）とでピッチパターンが異なる。(4) 発話の継続・終了を表す機能もある。発話が終了する時に発話末のピッチが低下する現象はあらゆる言語に観察される。また、発話が終わらず継続していることを示すために、標準語では、句末のピッチが高められたり、上昇下降調が用いられたりする。なお、話し手の感情や精神状態がピッチによって伝達されることがあるが、このような非言語的なピッチの変動は、イントネーションに含めないのがふつうである。

【音調句と句末音調】概して、日本諸方言のイントネーションは、音調句形成と句末音調によって記述できる。発話はイントネーションによっていくつかの部分に分割することができるが、この過程が音調句形成であり、分割された部分を音調句と呼ぶ。たとえば、「格好良いお父さんのスーツ」のように全体を1つの音調句にまとめることも、「格好良い／お父さんのスーツ」のように2つの音調句に分割することも可能である。音調句の境界を示すはたらきをするピッチパターンは句音調と呼ばれる。句音調は方言ごとに異なる。標準語を含め、多くの日本語方言では、句頭のピッチ上昇によって音調句境界が示される。音調句形成はフォーカスや統語構造とよく関連する。音調句形成を支配する原理の大部分は諸方言に共通しているが、方言差もある。

句末音調とは、音調句末に局所的に生じるピッチ変化のことである。標準語の一定の疑問文に生じるピッチ上昇がその典型例である。どのような句末音調がいくつ存在するかは方言ごとに異なる。句末音調は、発話意図や発話の継続・終了の表示などに主として用いられるが、フォーカスや統語構造の表示にも用いられ得る。句末音調の機能にも方言差が観察される。たとえば伝統的な鹿児島方言では、疑問文に上昇調を用いない。

【文献】郡士郎「日本語のイントネーション型と機能」『日本語音声2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』（三省堂1997）

【五十嵐陽介】

インフォームドコンセント

informed consent

調査

十分に情報を得た上で合意すること。医療現場において医療従事者が患者や家族に対して病状や治療方法を十分に説明し、それを受けて患者や家族が自らの意志で合意を行うことをいう場合が多いが、言語の調査・実験においても、事前の説明とそれに基づく合意が必要である。

【提示すべき情報】言語の調査・実験において被調査者・被験者に示すべき主な情報は次のとおりである。①調査・実験の目的・意義。

②方法。③場所、時間、期間。④実施責任者。⑤参加の任意性。⑥危害・健康被害・痛み等の不快な状態等が発生する可能性とそれへの対応。⑦調査により不利益が生じることがないということ。⑧個人情報の取り扱い。

⑨データの公開と研究成果の公表。⑩謝金・謝礼等。⑪問い合わせ・苦情等の連絡先。①～④は必須項目である。⑤には調査・実験の開始後でも参加を取りやめることができるという内容を盛り込む。⑥には1回の調査・実験の時間に対する配慮、予想される身体への負担とそれへの対応のしかた等を盛り込む。⑦の不利益とは、調査・実験に参加する（参加しない）ことにより後のケアに不利益が生じることがないということである。医療の場合は必須の項目だが、言語の場合も、もしこのようなことがあれば盛り込む必要がある。⑧については個人情報の管理方法を（→フェイスシート）、⑨についてはデータの公開方法と研究成果の公表方法を盛り込む。

【同意書】以上の内容を説明した後、被調査者・被験者に参加の意志を確認し、参加同意書にサインしてもらう。その後、調査を開始する。なお、インフォームドコンセントと同意書の内容は、事前に調査者が所属する組織の倫理委員会に諮り、許可を得る必要がある。

【木部暢子】

方言のアクセント

ほうげんのあくせんと

prosodic systems of Japanese dialects

音調

個々の語について決まっている、音の強さや高さの配置をアクセントと言う。強さが弁別的であるものを強さアクセント、高さが弁別的であるものを高さアクセントと言う。日本の諸方言はいずれも高さアクセントである。

【諸方言アクセントの類型】アクセント型の弁別特徴は方言により異なる。大きく分けて2つのタイプがあり、1つは特定の拍（または音節）にピッチの変動をもたらし特徴（アクセント核）が付与されており、それによって型が区別されるタイプ、もう1つは特定の音調（語声調（早田1999））、N型（上野1984）がアクセント単位全体にかぶさるタイプである。この2つの特徴により全国の方言を分類すると、以下の3つに類型化される。

特徴	方言
アクセント核	東京、弘前、京都、高知
語声調・N型	鹿児島、隠岐島
無アクセント	福島、熊本

核を持つ方言のうち京都方言や高知方言は、じつは核だけではすべてのアクセント型を区別することができない。たとえば、右上の表に示す高知市方言では核に加えてH（高起平進式）、L（低起上昇式）という2つの「式」を立てなければ、アクセント型のリストのすべてを区別することができない。2つの式は、その名称が示すとおり、始まりの高さを指定するだけでなく、アクセント単位全体にかぶさる音調を表している。上野善道はこのような方言を「核を持つ方言のうち式の特徴を有する方言」と位置づける。一方、早田は上記のような音調の特徴を語声調と同じものと捉え、これらの方言を核のみの方言、語声調のみの方言と区別して、「語声調と核の2つの特徴をあわせ持つ方言」とする。

高知市方言の名詞のアクセント

1拍語	2拍語	3拍語
ヒ(日)	ヤマ(山)	イノチ(命) オトコ(男)
エ(柄)	カゼ(風) サル(猿)	サクラ(桜) カブト(兜)
エニ(絵)	ソラ(空)	ウサギ(兎)

(○: 高、○: 下降)

1拍語	2拍語	3拍語
H1 Hヒ'(日) Hヤ'マ(山) Hイ'ノチ(命)		
H2		Hオト'コ(男)
H0 Hエ(柄) Hカゼ(風) Hサクラ(桜)		
L2	Lサル' (猿)	Lカブト' (兜)
L0 Lエ(絵) Lソラ(空) Lウサギ(兎)		

(H: 高起平進式、L: 低起上昇式、': 下げ核)

【核の方言】東京方言は核によって型が区別される方言である。たとえば「箸・橋・端」はそれぞれ「第1拍目に核がある」「第2拍目に核がある」「核を持たない」という特徴により、ハシガ（箸が）、ハシガ（橋が）、ハシガ（端が）という音調形に実現する。これらの核は下げ核（次の拍を下げる）である。核にはこの他に昇り核（自身の拍が上がる）、上げ核（次の拍を上げる）、降り核（自身の拍が下がる）がある。

昇り核の特徴を持つ弘前市方言では、言い切り形と接続形で音調形に違いがあり、言い切り形ではクジラ（鯨）、ウサギ（兎）、オトコ（男）のように文節末が下降するが、接続形ではクジラ…（鯨）、ウサギ…（兎）、オトコ…（男）のように文節末まで高が続く。弘前市方言の名詞のアクセントは、以下のように記述される（「: 昇り核」）。

	1拍語	2拍語	3拍語
1	「エ(絵)	「サル(猿)	「クジラ(鯨)
2		ヤ「マ(山)	ウ「サギ(兎)
3			オト「コ(男)
0	エ(柄)	カゼ(風)	サクラ(桜)

英日対照表

【A】

ablative 奪格
 accentless prosodic system 無アクセント
 accommodation アコモデーション
 accomplishment 達成
 accusative 対格
 achievement 到達
 acoustic analysis 音響分析
 activity 行為
 additive plural 同質複数
 address expressions 呼びかけ表現
 address terms 呼称
 adjectival noun 形容動詞
 adjective 形容詞
 adverb 副詞
 affix 接辞
 agent 動作主
 alignment of case marking 格配列
 allative 方位格
 allomorph 異形態
 ambiguous accent 曖昧アクセント
 analogy 類推
 animacy hierarchy 有生性の階層
 anticausative 逆使役
 argument 項
 aspect アスペクト
 aspirated sound 有気音
 aspiration 有気性
 associative plural 連合複数
 attitudes towards dialect 方言意識
 attitudinal expressions 待遇表現
 augmentative 指大辞
 Azuma uta 東歌

【B】

baby talk 幼児語
 backchannel responses 応答表現

backchanneling 相づち
 benefactive expressions 授受表現
 bleaching 意味の漂白
 body parts vocabulary 身体語彙
 bound form 拘束形式
 breathy voice 息漏れ声

【C】

case 格
 causative 使役
 cause and reason expressions 原因理由表現
 central vowel 中舌母音
 characteristic function 特性関数
 Christian materials キリシタン資料
 Chūrin dialects 中輪方言
 classified vocabulary アクセントの類別語彙
 clause 節
 click 吸着音
 clitic 接語
 closed syllable 閉音節
 code-switching コードスイッチング
 comitative 共格
 comparative linguistics 比較言語学
 complex onset moras 拗音
 complex predicate 複雑述語
 compositional 合成的
 concentric circle theory of dialect divergence
 方言圏論
 conditional expressions 条件表現／仮定表現
 conjectural expressions 推量表現
 conjugation 活用
 consonant 子音
 context 文脈
 contrastive topic 対照主題
 conventional implicature 慣習的含意
 conversational implicature 会話的含意
 cooperative principle 協調の原理
 copula コピュラ